

山鳥坂ダム・鹿野川ダム環境検討委員会  
第5回動植物の保全に関する専門部会  
議事概要

日時 平成21年3月17日 10:00～11:30

会場 山鳥坂ダム工事事務所 会議室

出席者 東雲女子短期大学 松井教授  
樹木医 得居先生

## 1. 山鳥坂ダムについて

### 1.1 各種の調査結果及び今後の調査について

#### ① マルバノサワトウガラシ

- ・ 多数生育しているなら、標本を採取・保存した方が良い。

#### ② スブタ属の一種

- ・ 引き続き調査を実施し、同定して欲しい。

#### ③ クロムヨウランの可能性のある種

- ・ 本年は夏季乾燥のため花茎が見られなかったとのことだが、平成21年も引き続き調査して欲しい。

### 1.2 移植種の管理及び今後の移植について

#### ① コバノチョウセンエノキ

- ・ 移植した本種の生育が良好であるとともに、事業実施区域以外から多数の個体が発見され、当初に設定した保全目標を達成すると考えられることから、新たな移植は実施しなくとも良いと考える。県内でも多くの産地が確認されている。

#### ② カビゴケ

- ・ カビゴケは、基盤樹木となるアオキの新葉に着生しなければならないのだから、少ない数を移植するより、まとまった数を移植するか、まわりにカビゴケの供給源がないと維持できないと考える。

#### ③ ムヨウラン類

- ・ 移植の成否の判断には時間がかかるだろう。このような事例はなかなか情報が得られないので、後続事業のためにも技術報告等にまとめるべきである。

#### ④ 湿性圃場

- ・ 水田に生育する種については、移植は可能だが、維持管理が難しい。最終的には観光資源となるような湿地公園等を作って移植する等について検討するとともに、永続的な維持管理の手法についても検討していく必要がある。

## 2. 鹿野川ダムについて

### 2.1 各種の調査結果及び今後の調査について

- ・ ヘツカニガキやチャボホトトギス等、分布上興味深い種が確認されている。
- ・ 四季調査の終了後、全種リストを作成すること。

以上



終了後、移植先（湿性圃場、事務所周辺、市有林）及びスブタ属の一種の生育地を視察頂いた。

- ・ コバノチョウセンエノキについては、以前に折れた痕跡に薬剤を塗布することで、樹皮が巻き込んで丈夫になる。
- ・ コバノチョウセンエノキの選定については、平成 21 年度は様子を見た方が良い。
- ・ キンラン移植先は、表層の落ち葉を除去する管理をした方が良い。（実際に除去した）

以上

